



ARCADIA

OKAZAKI CITY MUSEUM NEWS

岡崎市美術博物館ニュース〈アルカディア〉

SPRING
2024

98



手塚愛子《閉じたり開いたり そして勇気について (1)》2023年/作家蔵

現代では多様な人が暮らしやすく、またサステナブルな在り方が追求されてきている一方で、私たちの心は疫病や災害、国際情勢や景気変動により、寄る辺ない舟のように揺れつづけています。私たちが文化的で豊かに生きるには、改めて「心を語る」ことに向き合う必要があるのではないのでしょうか。

私たちが自分を語るとき、自分の全てを他者に伝えるのは不可能であるため、選択や省略、場合によっては誇張や変形といった編集作業を加えます。それは、様々な場面で振る舞いが異なる自分の断片を繋げて、ひとりの人物として一貫させるように創作することです。自分を語ることは、自分の断片を「むすぶ」と同時に、語ることで自分を「ひらく」表現であると言えるでしょう。



植松ゆりか《テナガザル》2019年/個人蔵

本章では、「ひらくこと」「とじること」を要素として備えている作品を紹介します。球体に水玉模様が特徴の陶磁器を制作する中島晴美の作品は有機的な形態の連続により、開くことと閉

第1章 開くこと、閉じること

た時間を辿りながら、文化や社会制度の歴史と構造に目を向けます。彼女は織物を「ひらく」ことで再構成し、過去の出来事と現在を織りなおして新たな回路に「つなぐ」ことを視覚的に表現します。本展は「ひらく」「むすぶ」という視点から絵画や彫刻、映像やインスタレーションなど二十二名の美術作家による作品を紹介するものです。

当館は開館した一九九六年当初より「心を語るミュージアム」として、心を伝え、心の作用が作り出した作品資料の収集や展示活動を行ってきました。このコンセプトは二十世紀末であった当時の過剰な物質文化の追求を反省し、精神文化とのバランスを問い直そうとする態度から生み出されたものでした。

EXHIBITION

ひらいて、むすんで

会期 令和6年4月13日(土)～6月16日(日)

今泉 岳大

本章では、本来は接点がないもの、従来では関係しえなかつたものを創作



村瀬恭子《Sherbet》2008年／当館蔵

第2章 越境する、接続する

「展示作家」植松ゆりか、国島征二、染谷重里可、手塚愛子、中島晴美、西村一成、ゴードン・マック・クラーク

「包まれた記憶」として閉じると同時に、それを作品として提示することで、いわば閉じたまま開いています。ぬいぐるみを切開し、中の綿を抜いて裏がえしたり額縁に入れて絵画にする植松ゆりかは、それらを用いて動物を生贄に捧げる祭壇を造ることで、自身の閉鎖的な精神世界を開いてゆく作品を制作します。アーティストが作品をとおして主体と他者、個と世界を繋げる試みを概観します。

本章では「縫合」をキーワードにして、私たちが他者との関係や自己の認識において無意識に「繋ぐ」という作業を行っていることや、一見関係のない出来事にも繋がりがあるということ

第3章 ナラティブと縫合



ツイ・チャウエイ《円II》2011年／森美術館蔵

行為によって接続しようとする作品を紹介します。宮田明日鹿は女性が家庭で行うものとされ美術から排除されてきた手芸を、敢えて美術の場所で「手芸部」として行うことで手芸や日常的な創作活動に内在する造形性を見直そうとします。井口直人は自身の趣味と記録のために長年コンビニで自身の持ち物と顔をコピーするライフワークを行ってきたましたが、近年その活動が注目され、現在では他者とのコミュニケーションシジョンとしてゲストと顔のコピーを行います。アーティストが自身の模索した表現方法で様々な方法で他者や世界と接続を試みた作品を概観します。

〔展示作家〕井口直人、OJUN、岡崎乾二郎、岡村桂三郎、鬼頭健吾、サム・フランシス、宮田明日鹿、村瀬恭子、ハンス・ベルメル



真坂亮平《SHE LOST ONE OF HER PAIR OF DIAMOND EARRINGS IN THIS SPACE》2011年

について考えます。手塚愛子は江戸後期の鎖国を調査し、当時開国によって劇的に変化した日本人の生活や文化の状況と、現代のインターネットにおける仮想空間にて世界に開かれ、世界と繋がる状況を重ね、刻々と変化する日常への期待と不安を織物で表現します。真坂亮平は片方しかないピアスと「彼女はもうひとつピアスをこの部屋で無くした」という文字と併せて展示することで、見るものにとつてただ何も無い場所が、無くしたピアスがあるかもしれない場所へと新たな関係を生み出します。ツイ・チャウエイによる筆で円を書いてそれが滲んで消えるという映像作品は、何もないところに新しかたちを生み出して消えてゆく様をとおして、部分が全体と繋がることを考えさせます。私たちが日々行っている「自分を語る」という表現には様々な「縫合」によって成り立っているということを考えます。

〔展示作家〕岡部志士、ジョン・ミロ、ツイ・チャウエイ、手塚愛子、真坂亮平、三科琢美、額田宣彦

ワークショップ1

- 「出張手芸部！ in岡崎」with宮田明日鹿(本展出品作家)
回 4月28日(日)、6月15日(土)
 - 「破ったり、つなげたり描くことの不思議さを体験しよう」
with三科琢美(本展出品作家)
回 5月5日(日)
 - 「コピー機を使ってつくるラミネート下敷」
with井口直人(本展出品作家)
回 5月18日(土)
 - 「ひとつ上をいく缶バッジ」
回 6月2日(日)
- いずれも午後1時30分～4時30分まで随時開催
定なし。当日混雑する場合は制限する場合がございます。
場当館1階ホワイエ 料無料 申不要

ワークショップ2

- 「みんなでつくる！
毛糸をむすんでつなぐインスタレーション」
- 来場者が継ぎ足してゆくことで増殖する、毛糸を使ったインスタレーションを館内に設置します。
回 会期中随時開催 場 当館1階ホワイエ 料 無料

ギャラリートーク

- 回 ①4月29日(月・祝)、②5月25日(土)、③6月9日(日)
各日とも午後2時～3時
- 場 当館1階展示室
(開始時刻までに展示室入口前にお集まりください)
- 料 無料※ただし、当日の観覧チケットが必要
- 担 当館学芸員

*展覧会カタログは5月下旬からの販売を予定しております

新収蔵品紹介

れいぜいためちか
冷泉為恭ひるこのみことず
《蛭子命図》

江戸時代後期

酒井 明日香

3

美術博物館では年に一回、新しい収蔵品の受入について外部の専門家の先生方に諮る「収集委員会」を開催しています。美術品では今年度、四点の作品が新しく美術博物館の収蔵品に加わりました。そのうちの二点、国島征二《FUKURO》（一九七三年）は、前回のアルカディア九十七号で紹介したとおりです。今回取り上げるのは、江戸時代後期の復古やまと絵師、冷泉為恭の作品です。

画面の中央で、一人の人物が岩盤に座っています。服は白色の狩衣と指貫をまとい、頭には立烏帽子をかぶっています。引目鉤鼻で描かれた、優美な笑みをたたえた顔立ちと装束から、この人物は若い公家と思わせます。しかし持ち物は、男性貴族の定番である蝙蝠（扇）ではなく、右手に鯛、左手に釣り糸を手にしています。

作品名にある「蛭子命」は漁業や商売繁盛の神である恵比寿のことで、本作品で恵比寿を描いたこと

がわかります。しかし、恵比寿は初老から老年の男性が、満面の笑みを浮かべる姿で描かれるのが通例です。七福神の恵比寿を思い浮かべていただくと、手に持った鯛は本作品にも共通していますが、人物の姿はかけ離れていることがわかります。逆に言えば、恵比寿を若い公家男性風に描いたところが、本作品の一番の特徴と言えそうです。落款「凶書学生藤原為恭誠恐誠惶謹図之」から、本作品は為恭が二十代半ばの頃の制作であると推測されます。画業の初期から、為恭が有職故実に高い関心を持っていたことがうかがえます。

冷泉為恭は文政六年（一八二二）、京狩野の狩野永泰の三男に生まれました。若い頃から絵の才能を発揮しましたが、狩野派の画風になじまず、古典作品の研究や模写を行ってやまと絵の技法を学びました。その力量は江戸の狩野家にも認められ、天保十四年（一八四三）には江戸狩野の晴川院養信の依頼に応じ



冷泉為恭 《蛭子命図》

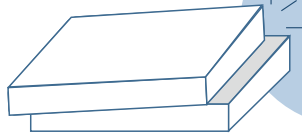


参考図版
冷泉為恭《恵美須神像》(部分)
画像は『日本の美術 第261号 冷泉為恭と復古大和絵』至文堂、1988年、2頁から引用

て《年中行事図巻》（重要美術品、細見美術館蔵）を制作しました。その後安政二年（一八五五）には《京都御所小御所襖絵》（宮内庁京都事務所蔵）、翌三年には《大樹寺障壁画》（重要文化財、大樹寺蔵）を描くなど、画業は円熟期に達します。

岡崎の名刹である大樹寺の障壁画を手掛けたことから、当館では冷泉為恭を地域の歴史を語るうえで重要な絵師であると考えており、本作品の収蔵に至りました。当館が所蔵する他の為恭の作品と大樹寺の障壁画で、初期から晩年まで、為恭の各年代の画業を知ることができます。

ところで、本作品と同様に、恵比寿を若い公家風に描いた為恭の作品も知られています（参考図版）。こちらの作品は為恭が二十三歳のときの作と言われている。両作品を比較することで、《蛭子命図》の制作年代など、何か新しくわかることがないかと期待しています。恵比寿さまにあやかっ、贅沢に鯛とはいかずとも、小さな海老でも釣りあげたいものです。この秋から、当館は二年近く工事のため休館となります。再オープンした際には、他の為恭作品と一緒にみなさまにご覧いただけるよう、準備していく予定です。お楽しみに！



暮らしの道具箱 VI

～新しく資料に仲間入り～

雛人形

伊藤 久美子

近年、雛人形のお話が多く寄せられます。令和五年度は新たに三件を寄贈として受け入れましたのでご紹介します。

御殿雛飾り (写真1・2)

ともに昭和三十三年(一九五八)生まれの方の節句飾りで、大型の御殿雛飾りです。写真1は引越しに伴う家財整理にあたり、写真2は人形の処分を考えて、雛人形を贈られたご本人からのお申し出です。

京都御所の寝殿などを模した御殿のなかに内裏雛や官女の人形を飾る御殿雛飾りは、江戸時代後期から昭和にかけて作られ、京都を中心とした関西地方で人気を集めた雛人形です。この地方では昭和になって定着し、昭和四〇年頃まで見られます。現在、制作や販売はなく、幻の雛人形とも言われます。

この二件は御殿の奥行が小さくなり上へ高く積みあがるといふ正面からの見栄えを重視した作りで、金鯨の屋根飾りを持ち、金色の飾りや極彩色を多用して豪華に装飾されています。この地方での御殿雛飾り全盛期のものであり、昭和三〇年代以降に大型化する御殿の特徴をみとることができません。同時代のものながら、写真1の御殿のパーツは、飾り付けの時間を省くためにやや簡略化された作りとなっています。

木目込み雛人形 (写真3)

木目込み人形は、桐のおが屑と糊を練り固め乾燥させたボディに筋彫りをし、その

溝に布地をヘラや目打ちなどで木目込んで衣装を着せ付けた人形です。江戸時代中期からみられる伝統的な技法であり、昭和戦後には木目込み人形が全国的に流通しました。

本件は、昭和四十二年生まれの方の節句飾りで、小振りな十五人揃い段飾りの木目込み雛人形です。小道具にわずかな破損や欠失があるものの大きな損傷、汚れはなく、人形もとても綺麗な状態です。真多呂人形学院による限定頒布品で、娘のためにご夫婦で買い揃えたものですが、終活の一環としてお母さまからのお申し出です。

前出の御殿雛飾りより一段階新しい時期のものにあたり、雛人形にバリエーションが出てくる頃の人形です。

毎年、桃の節句にあわせて華やかな雛人形を飾ってお祝いすることが、かつては庶民の憧れでありました。我が子や孫を怪我や病気から守り、将来幸せな家庭を築けますようにという祈りを込めて飾られる雛人形は、飾ったり片付けたりの手間も大変です。また、生活スタイルの多様化により住宅環境が大きく変わり、最近の新しい家には仏間や広い日本間どころか、そもそも和室がないということもあるようで、大きな雛壇の雛人形は飾れません。それに収納場所も取りますから、今は飾るのも所有するのも難しくなっています。

年中行事に対する意識や感覚も変わってきて、雛人形は飾るものでなくて、見に行くものになってきているのでしょうか。



写真3



写真1



写真2

江戸時代の
事件簿

山下 葵

CASE 3



5

〈承前〉
ちのという少女は天明八年（一七八八）に盗みをはたらき、寛政三年（一七九一）に再犯に及んだ。度々処分を受けたにもかかわらず、彼女は盗みを繰り返す。

三回目の盗み

史料上で確認できるちのの三回目の捕縛は寛政四年（一七九二）、再犯で六十答に処されてから僅か一年後のことである。

寛政四年『口書』にその詳細が記述されている。この時ちのは十六歳で、十二歳の「つま」・十五歳の「りか」という同じく物貰い身分の少女たちと共謀して盗みをはたらいた。盗品は白木綿一反をはじめとする布製品で、少量ずつ別々の家屋から複数回にわたって盗みをしていった。その一連の盗みについて今回は裁きを受けることになる。

前提として、熊本藩の刑法典である刑法草書の再犯規定に基づけば、再犯は初犯の量刑に四等加え、再々犯は再犯の量刑に六等加え刺墨を付加する決まりで、この計算では初犯の量刑が七十答以上の者が再々犯した場合は斬首となる¹。天明七年の初犯の際の量刑が七十答であったちのは、本件が再々犯で斬首を免れられない。

しかし、結果を先に述べると、ちのは死刑には

ならなかった。『口書』には、刑罰決定にいたるまでの経緯を次のように示している²。

右者、罪状口書之通窃盗之再々犯二而御座候、去
①初犯者年足り不申者二付呵二而被差免候、去年再犯之節刺墨六十答徒一年相当之処、全徒刑を被除六十答之刑二被處候、然処、此度再々犯二付、再犯之刺墨六十答徒一年二六等を加候へハ斬相当二而御座候得共、^②当年漸十六歳二相成、殊二追々被宥置候訳も有之候へ者、此節迄者、死刑二者難被處可有之哉、左候へ者、
③頼二入墨百答三年眉無相当之処、女者刺墨徒刑を被除候例、答数八百を限り申候事二候得者、各別被仰付様茂無之候付、百答之刑被處、
④此以後盗いたし候得者多少二不拘死罪二被仰付候段申渡置候而ハ如何程可有之哉、
但、再犯之節之僉議、例書等相添申候、

まずは、ちのの犯歴について整理している。ちのは初犯は「年足り不申者」（＝幼年者）であったことを理由に「呵」となり、去年の再犯では「刺墨六十答徒一年相当」の量刑であったが「全徒刑」（＝刺墨・徒一年）を除いて六十答となった。今回再々犯に及び、再犯時の量刑に六等加え「斬相当」の量刑となるという、法に則って裁いた場合を示している（傍線部①）。

先に述べたように刑法草書の「老人幼少之者犯事」条によれば、十五歳以下の者が刑罰の宥免対象となる³。今回ちのは十六歳であり、法的には成人として扱われるが、ようやく十六歳になったばかりの若者であること、また、「殊二追々被宥置候訳」即ち、とりわけゆるされる事由があるとして、今回までは死刑を免除するとしている（傍線部②）。

続いて「頼二入墨百答三年眉無相当」という量刑が示されるが、これは管刑・徒刑（眉無）で制度上科せる最大値に、付加刑である刺墨をつけた刑罰で、つまり死刑以外で科せる最大限重い刑罰ということである。しかしながら、刑法草書の「婦女犯事」条に基づき、女性には徒刑・刺墨を科すことはできない。従ってちののに対しては、徒刑・刺墨を除き、答刑の最大限である百答を科すことで決着しようとしたのである（下線部③）。

加えて、ちののに対しては今後再び盗みをする可能性がある、盗んだ金額にかかわらず死刑に処すということを申し渡している（傍線部④）。

つまり、次は無いぞ、という注意をした上で、死刑は免除し、百答に処すこととなったのである。傍線部②にある「殊二追々被宥置候訳」について具体的な記述は『口書』のなかにはみられないが、恐らく彼女たちが物貰いの身分であり、貧困により生活が苦しかったがゆえの犯行ということが斟酌された可能性はあるだろう。いずれにせよ、本来は成人女性として扱われるべきちののに対し、まだ十六歳の若者であることを主な理由として、死刑を回避しようとする刑法方の姿勢が見て取れる。

〈続〉

¹ 小林宏・高塩博編『熊本藩法制史料集』創文社、一九九六年、三六四～三六七頁。

² 『口書 寛政四年』（熊本大学附属図書館寄託永青文庫資料）所収、資料請求番号

三一・一五五

³ 小林宏・高塩博編『熊本藩法制史料集』創文社、一九九六年、三六〇～三六一頁。

乙川旧流路を探る雑感
※あるいは職務質問を乗り切る証拠資料

湯谷 翔悟

鎌倉古道を歩く
鉢地から山中へ

安本 翔音

不審者情報！
明大寺町周辺で、ニヤつきながらガケや道を撮影する中年男性。背は少し高めで中肉、目が合うと自転車に乗って逃走。

などといった目撃情報がでしたら、恐らく私です。生来人付き合いが苦手な性分なので、挙動が怪しいことこの上ないです。

最近では休みの度に、乙川旧流路探しに出ています。岡崎を貫流する乙川は、今から六〇〇年前くらいまでは東岡崎の西で大きく南に曲がって流れていたと考えられています。

今では市街地化してしまい、一見その跡形もありません。しかし古い地図や地形図と照らし合わせると、ぼんやりと姿が見えてくるところもあります。それを頼りに現地に行くと、あるわあるわ。

車通りの多い道の下に隠れた芦池橋の名残り、暗渠であることを如実に示す段差と土管の形が浮き出た道、そして川の流れを示す高低差。そうした場所に気づいた刹那、乙川の流れが眼前に現れる気がしてきます。

なかなか見つからず途方に暮れ、お茶をひと口飲んでふと目を遣ったら、不自然な家と家の隙間が。なんて瞬間があったらそらニヤニヤもするでしょうよ！

でもね、すると、不審者中年男性いっちゃ上がり！となる訳ですよ、ハイ！



明大寺町の暗渠。戦前の地図の同じ位置には水路が示されている。

しかしこの流路の問題、突き詰めていくと「岡崎」の誕生、足利氏や松平氏の研究にも繋がる重要なテーマです。なので怪しまれようとも引き続き続行しようと思います。休みの日にしかなかなかできない、こうした地道な調査にご理解いただければ幸いです。

不審者情報！

明大寺町周辺で、不気味な笑顔であいさつをしてくる中年男性。市街地を撮影し何も言わずに逃走。空き巣や新車のサギの手口かもしれないのでご注意ください。……どっちにしろダメかもなあ……

江戸時代の絵図⁽¹⁾や平成初期に書かれた鎌倉街道を推定した書籍⁽²⁾、現在の地図を頼りに鎌倉街道を求め、雨の中、本宿駅に降り立った。鉢地の菩提院から法蔵寺の裏を抜け、途中の山越えを経て青木神社を通り、山中八幡宮下に至るまでが今回のルートである。

菩提院から法蔵寺の裏山を越えるルートは昭和中期までは山であったことから、やはり険しい坂道である。本宿村絵図を見るに、細い線が描かれており、道が元々あったことは確認できる。ただし、現在この一帯は開発されており、旧道の痕跡は皆無である。本宿の住宅街を抜けると本宿神明社に出る。正面の丘には神明社に通ずる道があり、開発の進んだこの町にも古い趣が一部感じられる。そして、そのまま東に進んでいくと東海中学校へと通じる。東海中手前あたりの狭く入り組んだ道は、昔ながらの道の香りがする。

このあたりに古代の駅家があったと想定されているが、何とも言いようがない。さあここから先は山越えである。東海中の裏手を通り青木神社まで抜けるルートである。小雨が降っていたが、意気揚々と沢を左手に見ながら登っていく。しかし、中腹あたりで何か動物の動くような大きな音を聞く。イノシシ？ たしかこの辺には熊はいないはず……と考えながら、恐怖のあまり下山を決定する。都会育ちで現代っ子の僕にはまだ早かったのだ。次は湯谷さん

を連れてこよう。腰痛持ちの彼より僕の方がきつと逃げ足は速い。そして、戻ってから気づいたが、道を誤っていたようでもある。遭難しなくてよかった。さて、山越えを諦めた失意のもと、コンクリートの道に安堵しながら東海道を通り、山中へ入る。東海道は山の台地上を通るが、鎌倉街道は台地のへりに沿ってその下を通っているようだ。途中、鎌倉街道跡の石碑も見しつ、そのまま進みゴールの山中八幡宮下へと到着した。

やはり、雨の中の調査はすべきではない。だが、雨天の険しい道中、寺社の軒下でのちよっとした休憩は至福のひと時であった。当時の人々も同じように景色を眺めたのであろうか。たまにはゆっくりと、雨が止むのを待つのも悪くはない。



お散歩ルート (国土地理院地図を基に作成)

(1) 鉢地村絵図「本宿村絵図」(三河武士のやかた家蔵館「岡崎の古利法蔵寺」1996、より)
(2) 尾藤卓男「平安・鎌倉古道」(愛知県郷土資料刊行会、1997)

展覧会ラインナップ 2024

2024	4	5	6	7	8	9	10	11	12	2025	1	2	3
休館	ひらいて、むすんで 4/13(土)~6/16(日)	休館	休館	QuizKnockと巡る江戸東京博物館展 7/13(土)~9/23(月・祝)	休館	改修工事のため休館 2024年9月24日~2026年6月末(予定)							

- ひらいて、むすんで 4/13 (土) ~ 6/16 (日) アートから「心を語る」ことを考える。
- QuizKnock と巡る江戸東京博物館展 7/13 (土) ~ 9/23 (月・祝) 江戸時代にタイムスリップ!
- 改修工事のため休館 9/24 (土) ~ 2026. 6 (予定) 美博ももうアラサー。あちこちが痛むのです。

SHOP INFORMATION



1937年に創業した山田繊維のブランド「むす美(び)」は、「生す(むす)」+「美(び)」を語源としたふろしきブランド。ふろしきで心豊かな暮らしをテーマに、現代の暮らしに合うふろしきを様々な生み出しています。両面染め・ダブルフェイス・撥水加工などの新しい染色技術に加え、ただデザインするだけでなく、使うことを想定し“平面としても立体としても楽しめるふろしき”を提案しています。また、古くから日本の暮らしにかかせなかった風呂敷は、製造工程上も端材が少なく、日用品として何度も使い続けられることができる環境に優しいアイテムであることから、サステナビリティの概念の広がりとともに、再び注目を集めています。

営業時間 10:00 - 17:00
 定休日 月曜日(祝日の場合は営業。翌火曜日が振替定休日となります)
 TEL 0564-83-5952 FAX 0564-83-5953
 MAIL yagura@b-soup.com
 HP <https://www.facebook.com/museumshop.yagura>



YOUR TABLE

岡崎市美術館併設のカフェレストラン『YOUR TABLE』。ガラス張りの店内には太陽の光がいっぱい入り、お洒落で開放的な空間が広がります。ランチ時には景色を愉しみながらお食事をすることができます。

カフェタイムにはケーキセットや軽食などを販売中。

営業時間 11:00~21:30 土日祝 10:00~21:30
 定休日 月曜日(祝日の場合は営業。翌火曜日が振替定休日となります)
 LUNCH 11:00 - 14:30 (L.O.14:00) T E A 14:30 - 17:00 (L.O.16:00)
 DINNER 18:00 - 21:30 (L.O.20:30)
 TEL 0564-28-0141 H P <https://your-table.owst.jp>

表紙画像：手塚愛子《Fragile Surface - Bird (24-07)》2024年



開館時間 午前10時~午後5時
 ※最終の入場は閉館時間の30分前まで

休館日 月曜日(祝日に該当する場合は、その翌日以後休日でない日)
 年末年始 ※展示替えのため臨時休館する事があります。

HP <https://www.city.okazaki.lg.jp/museum>



【岡崎市美術館ニュース/アルカディア】 第98号 2024年3月発行
 編集・発行 岡崎市美術館
 〒444-0002 愛知県岡崎市高隆寺町1番地 岡崎中央総合公園内
 TEL 0564-28-5000(代表)